

この問題の特徴は、3つの整数の和において、各位の和におけるくりあがりいくつになるのかを推理しながら進める必要があるということです。くりあがりはない場合もあるし、2の場合もあります。

どちらの問題も百の位の数字から考えていくとよいのですが、問題1では百の位が決まったあとは、一の位の和を考えると早いでしょう。一の位からのくりあがりは必ず1になることがわかるので、答えは早く見つかります。

なお、同じ位に入る数字の組は1～3段目のどこに入れても結果は同じになるので、数字の組さえ決まれば、それらを何段目に入れるかを考える必要はありません。

問題2は、百の位でくりあがりがないことが大きなヒントになります。ここで小さい数字を3つ使うことになれば、十の位と一の位のくりあがりは最低でも1になります。そこで、百の位の数字の和が6か7だとわかるので、そこからしぼりこんでいくといいでしょう（6なら答えが出てきますが、7だと出てきません）。

余談になりますが、昔から検算のテクニックのひとつに「九去法」と呼ばれる方法があります。これが上手に使える人ならどちらの問題も一瞬で解けるのですが、興味がある人は調べてみるといいでしょう。

[平成16年度出題]

正解

1. 3 2. 6